つがるの昔っこ（昔話）①

豆っ子三太郎

（津軽弁Ver.）

国土交通省　東北地方整備局
岩木川ダム統合管理事務所
イラスト　：　やざわ　ゆな
カラーリング　：　つしま　けいこ

むがし、ある村さ　三太郎ず　わらす（童子）　居であったど。体っこちせくて、力っこも弱ぇもんだどこで、ぃや～いっつも皆に「豆っ子三太　豆っ子三太」って馬鹿にさいで泣がされであったど。
三太郎のおどぁ（お父は）、それば苦にして何とか三太郎ば　ふとりめ(一人前)　の　おどご(男)　に育でてもんだど思ってあったばって、三太郎　とお(十歳)になったどぎ、おど流行り病さ　かがって　死んでまったど。そのどぎ、おどぁ息子ば枕元さ呼ばって苦しい　いぎ(息)の下がら、こんこんと諭したど。

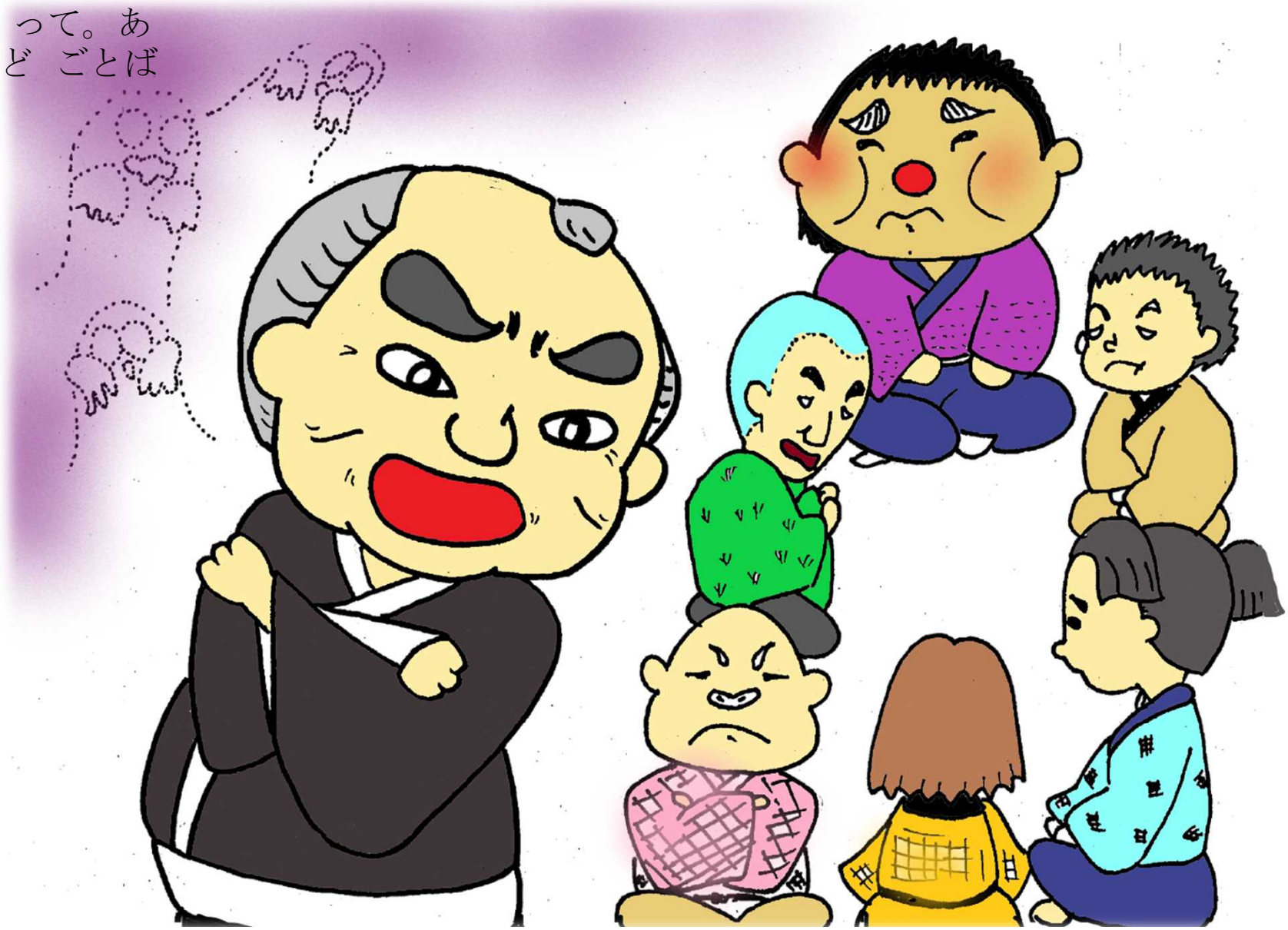
「三太郎、おめ　体コもちせし、力も弱ぇくて、いっつも皆にいじめられでるばって、そしたらごとで、いんちけだり　へば　まいね（だめだ）や。人間、一番大事なごとぁ　優しい気持ぢば持ってるごとど、勇気のあるごとだ。はぁ、わ、今おめさ良い物ける（あげる）はんで、こればいっつも離さねんで持ってろ。何が困ったごとあったら、これば握って「おど、おど」って　わ（私）とば呼ばれ。わ、あの世がら必ずおめさ勇気ばあだえでやるはんで、決して悲観したりへばまいねや。」ってお守りば三太郎さわだして　おど　死んだど。

ぃや～、三太郎悲しふて悲しふて遊ぶごとも　まま　食うごとも忘れで、まいにぢ（毎日）まいにぢ泣いで暮らしたど。そして、七七（しぢしぢ）四十九日（しじゅうくにぢ）たった日のごとだ。三太郎ふと、おどぁ残していってけだお守りのごと思い出した。お守りば、ぎっちど握って　おど　のしゃべた通り　まなぐ　ばつぶって　おど　のなめ（名前）ば呼ばってみだど。したっきゃ、不思議だごとに、三太郎の悲しい気持ちコだんだんど消えていってせ、心のおぐのほうがらなんだがこう勇気がわいでくるんてあったど。

んだ、こして居られね。元気出さねばまいねってそれがら、まだ十歳の三太郎は　あぱ（母）ごと助けで、一生懸命はだらいだど。
ほがのわらほんど（子供達）に、まだ「豆っ子三太　豆っ子三太」ってからがわれでも、三太郎は相手にさねんで、苦しいどぎ、辛いどぎは必ずお守りば握って「おど、おど」って呼ばったど。生ぎで側に居ねのは悲しがったども、その代わり、おどぁいづでも　わ（我）とば見でけでるんだど思えば、不思議と元気出はるんだど。

三太郎が十五になったどぎだ。そのころの十五ってば、もうほら、ふとりめのおどな(大人)だんだよ。近頃、村外れさ化げ物出はるず噂流れだ。いや～、なんでもその化げ物ぁ、夜更けでがら村の西ば流れでる川の橋のあだりさ出でよ、「わ～ぃもで（重たい）でゃ～、てづだって（手伝って）けろじゃ～ぃ、わ～ぃ　もででゃ～、てづだってけろじゃ～ぃ」って苦しそうにさげぶ（叫ぶ）んだずんだ。
いや～、噂だんだん
おっきぐなってきた。

村の名主の千兵衛、「これだば、ほっておがいねにゃ」って。ある日、村の おどごんど ごとばあづめで相談したど。



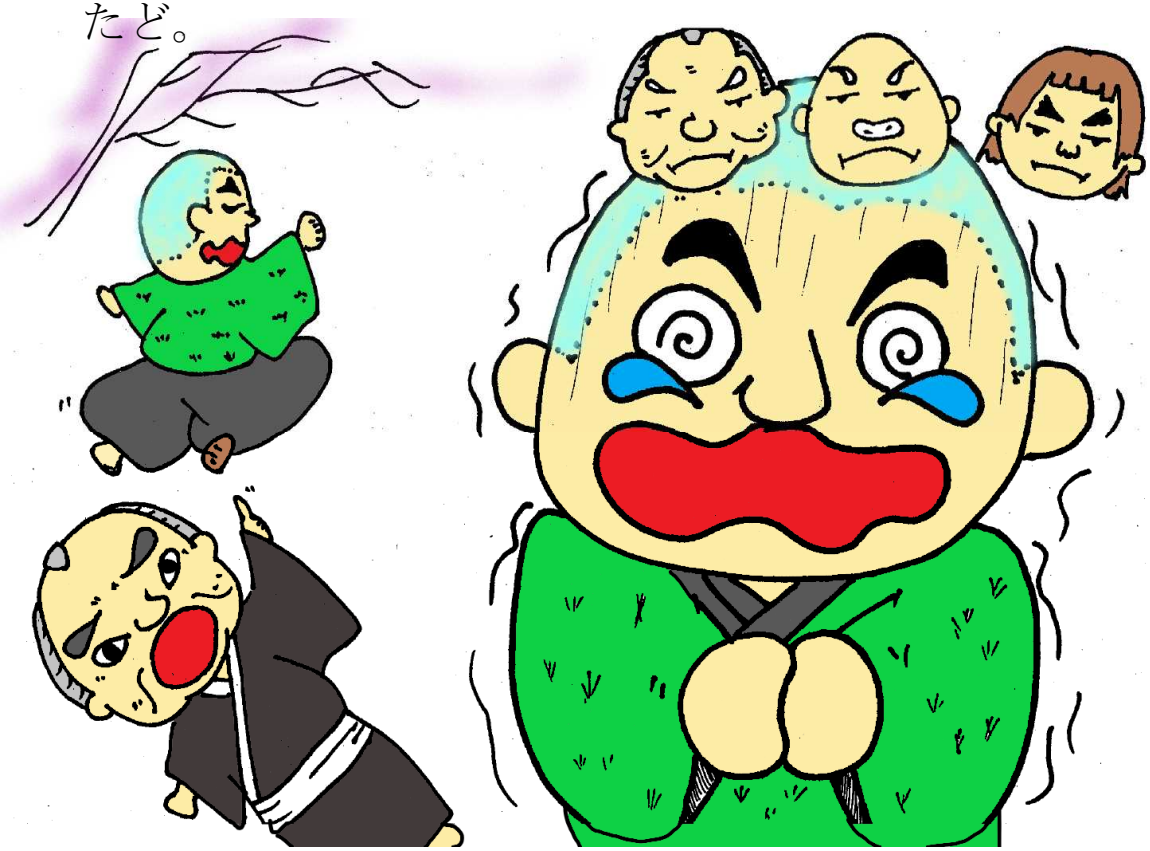
皆して色々しゃべったばって、どうも話あやふやで、意見が その まどまらねど。そごで、今度ぁ千兵衛、「みな、いいが。化げ物を化げ物てすばって、こりゃふとつ、その化げ物ずのぁ、ほんとぁどしたもんだがさ、しっかど確かめでみねばまいねな。おっかねど思って見れば、枯れ木も幽霊に見えるし、風のおど（音）も人の声に聞ける。こりゃまんず、その化げ物の正体ば確かめでみるべ。」ってして、「誰が、その化げ物の正体ば確かめに行ぐやづ（奴）いねが？ん？」

「ん～。んだな。こら、ごん助、おめ行ってこいじゃ。」「んぁ？わ、わぁが？！」ごん助は村一番のつから（力）持ちでせ、周りの村どの相撲大会で優勝して、このあだ（辺）りの素人相撲のよごづな（横綱）だってされで、普段だばイガイガ（威張って）って歩いでるおどごだ。「んだ、おめ日頃がらこのつか（近）ぐの村々で、おらさ敵うやづいねって しゃべって歩いでるおどごだべ？んだ、おめしかいね。おめ行ってこい。」ごん助ぁ、はぁ、つからだばつぇ（強い）ばって、本当は肝っコちせ、づぐねおどごであったど。したばって、日頃 力自慢ば鼻にかげでるもんだどごで、いまさら「んにゃ（いや）」ってもさぃねぃの。「へば、行ってくるがなぁ」ってして出がげだど。

たんげ（だいぶ）経ったきゃ戻ってきたどごで、みんなごん助のそばさ寄って「で？どんであったば？化げ物の正体なんであったば？」って聞だ。ごん助「わぁ川のわぎ（脇）で、しんばらぐ待ってらばって、もっけ（かえる）ぁゲロゲロって泣いでるばりでなんも出でこねはんで、ふとまづ戻ってきたのせ。ま、時間少し早すぎだんだべが。それとも、わぁさ恐れなして化げ物のやづぁ出で来ねがったんだがべゃな。あっはっはっはっは。」ってした。

千兵衛、「んだなぁ。へばよ、もっと夜更けになってがら、もっかい（もう一回）行ってこいじゃ。」「んぁ？よなが（夜中）にもっかい？あ？あだだだだだ。わ、なんだが急に腹あんべいぐねぐなってきたでゃ。ちょっと、え（家）さ戻って薬コ飲んでくるでゃ」ってしてコソコソど帰ったきゃ。今度はぁなんぼ待っても戻てこねど。千兵衛、「ごん助のやづぁ、急に腹いでて、ありゃ仮病だべね。づぐ（根性）なしだもんだ。」

「お、へば長作、今度おめ行げ。おめ、いっつも足はえ（速い）のば自慢にしてらべ。橋の側まで行って、よ～ぐ化げ物ば確かめでこい。」さぁ次に、早足自慢の長作が見に行った。したばて今度ぁ、なんぼしても戻ってこね。「あれ、おせぇなあ？何があったんでねな？もしがして、化げ物にかいじゃんだべが？」ってみんなも不安になってきたど。したっきゃそごさ、ブルブルブルブルど震えで、真っ青になって、まなく（目）玉もなんもグルっとでんぐり返るんたつら（面）した長作、いぎ切って戻ってきたど。



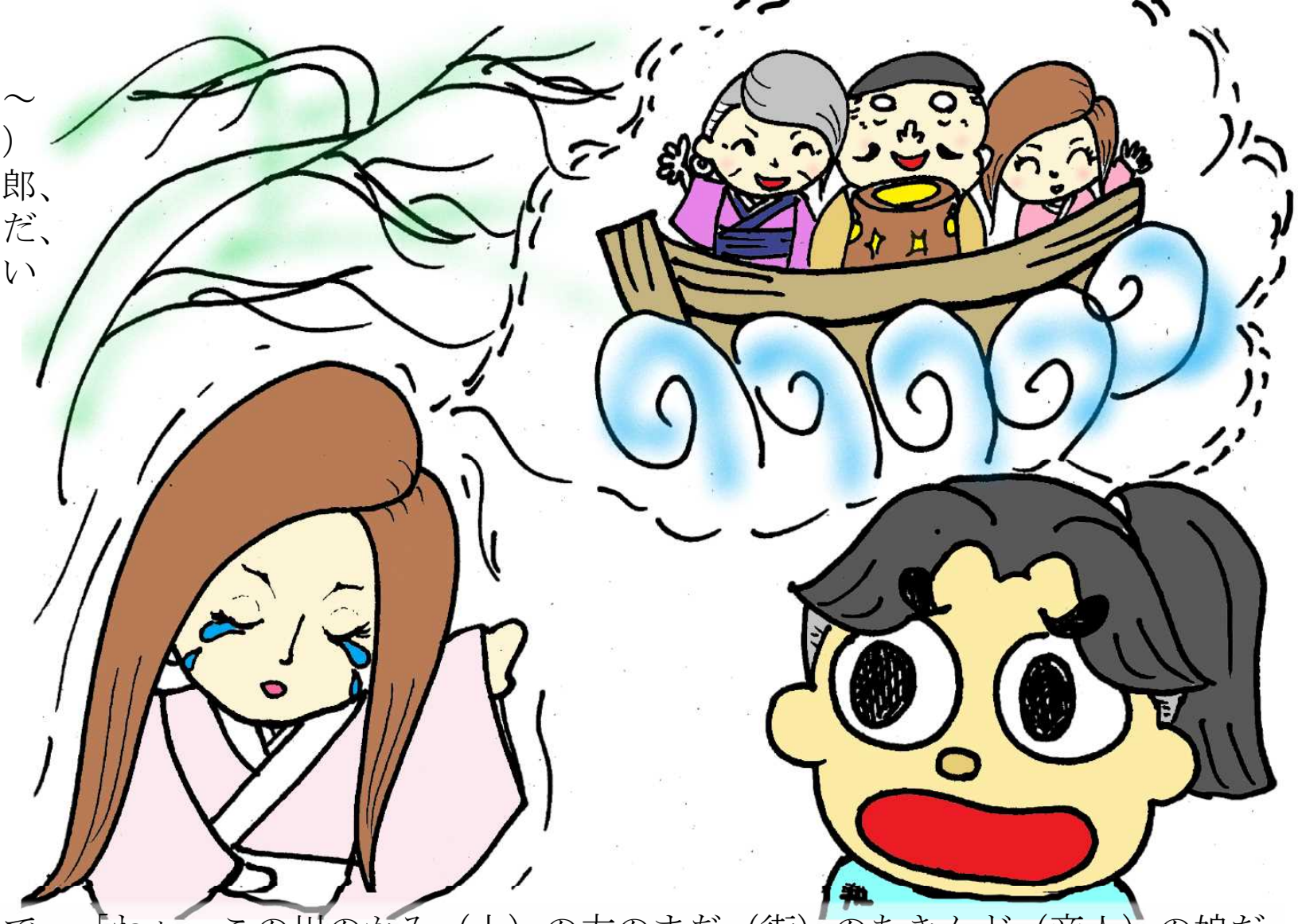
よっぽどおっかね目にあったんだがさ、こぃ（声）まではぁ、ワナワナワナワナど震えで「でででででで出だぁ、まぢがいねぐ、化げ物だ～」ってして「ありゃ聞いだもんでねばわがね。あーあの恐ろしい声。わぃ～もでじゃ～　てづだってけろじゃ～　て、まるで地獄がら聞けで来るんた声でよ。はぁ、ややややや、わぁあれ聞いだっきゃ体中の血ぁさがさ（逆さ）に流れで心臓凍ってしまるんた気持ぢであったでゃ」「して、おめその化げ物ば見だな？」「なんも、わ　その声聞いだばりで、おっかねふておっかねふて、とても側まで行って見る度胸ね。わ～一目散にはっけで（走って）逃げできたでば。」さあ、それ聞いだ千兵衛も村のおどごだぢもシーンとなってまって、しばらぐぁだーもくぢきぐやづもいね。

したばて、化げ物居るどわがってこのままにしておげるもんでもねべ。もし、おなご子供に害したりへば大変なごとになる。
「おぁ、誰がその化げ物の正体ば見極めで来る者いねが？」ってしても、もう今度はだんも「わ行ぐ～」「わ見でくる～」ってすやづ居ねど。「大五郎どんだば？金太、おめどんだば？弥吉どんだ？」って聞でもみんなつらば青ぐして下向いで返事もへね。そしたきゃ、部屋の隅のほがらふとりの声上がたど。

「わぁ行ってくる」みんなどってん　して見だきゃ、それあのみんながら「豆っ子豆っ子」ってばがにさぃでる三太郎であったど。それ見だ千兵衛も内心はぁびっくらどしたばって、ほがにだんも名乗り出る者もねぇ。「よ～し、よ～ぐ言った。だんも尻込みして行ぐ者ねずどぎ、三太郎、おめよぐ名乗り出だ。こしたどぎ見へるおどごの根性ずものぁほんとの根性だべ。三太郎、けっぱって（気張って）行ってきてみろじゃ。」って励ましたど。

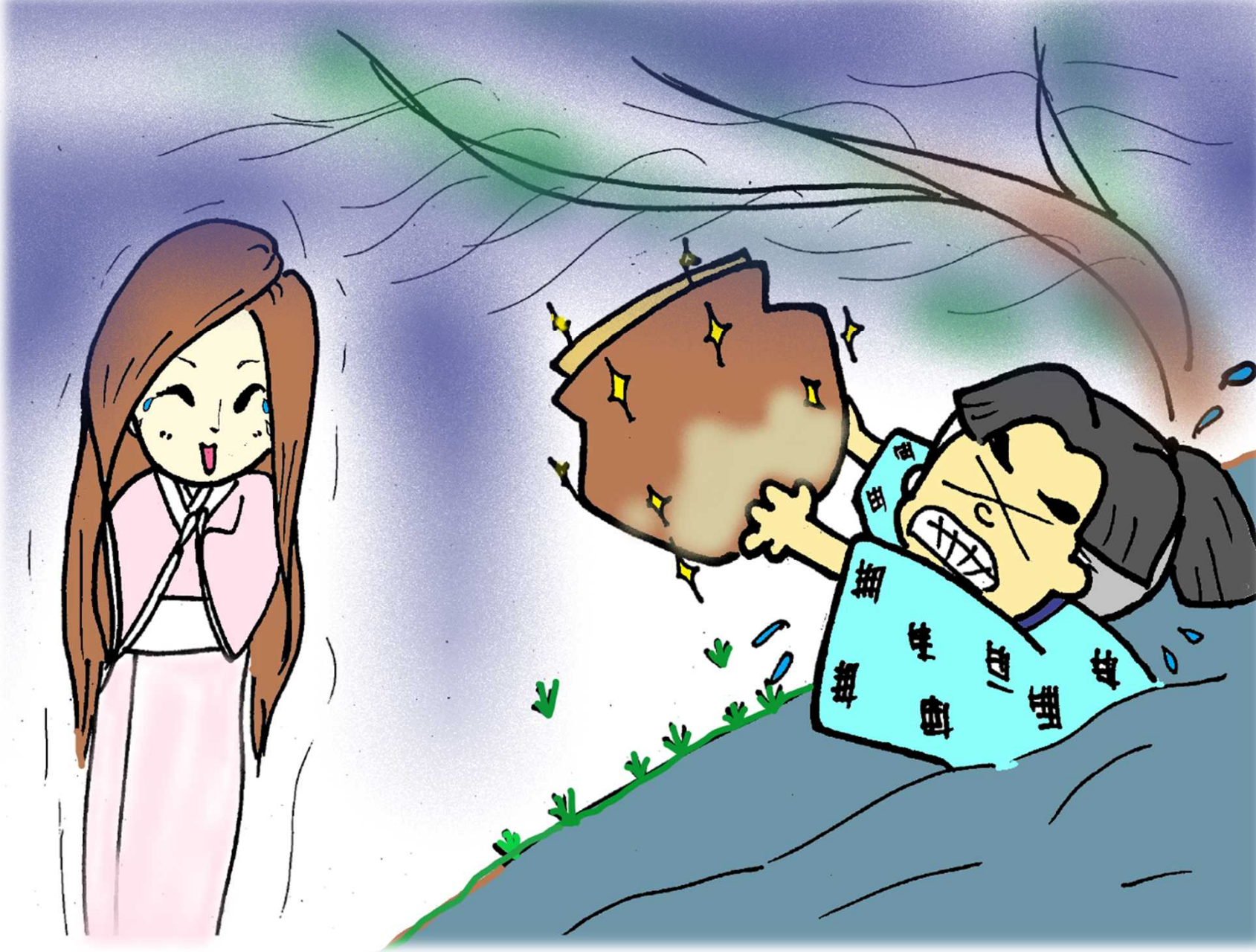
三太郎ぁ、ずーっと歩いで行った。だんだんと、化げ物出るずや場所さ近づいでいったど。川のどごまできたきゃ、闇のなががら「わい～　もでじゃ～ぃ　てづだってけろじゃ～ぃ　わい～　もでじゃ～　てづだってけろじゃ～ぃ」ってす声聞けできた。「化げ物だ!!」三太郎ぁ、あだまがら水かぷたんたけにはぁ前進ブルブルブルて震えだど。したばて、こごで負げでいられねど思って、ふとごろがら　おどのお守りば出してぎっちど握って「おど～、おど～」って心のながで呼ばたど。したっきゃ、気持ちコスーっておぢづできた。声したほづば、しばらぐ黙って見でらきゃ、まなぐも闇さ慣れできた。

したっきゃそごさ、きれぇ～がだだわげぇ（綺麗で若い）娘コ立ってあったど。三太郎、ゴクラって唾飲んで「あんだ、だ、だれですば？」って聞いだど。

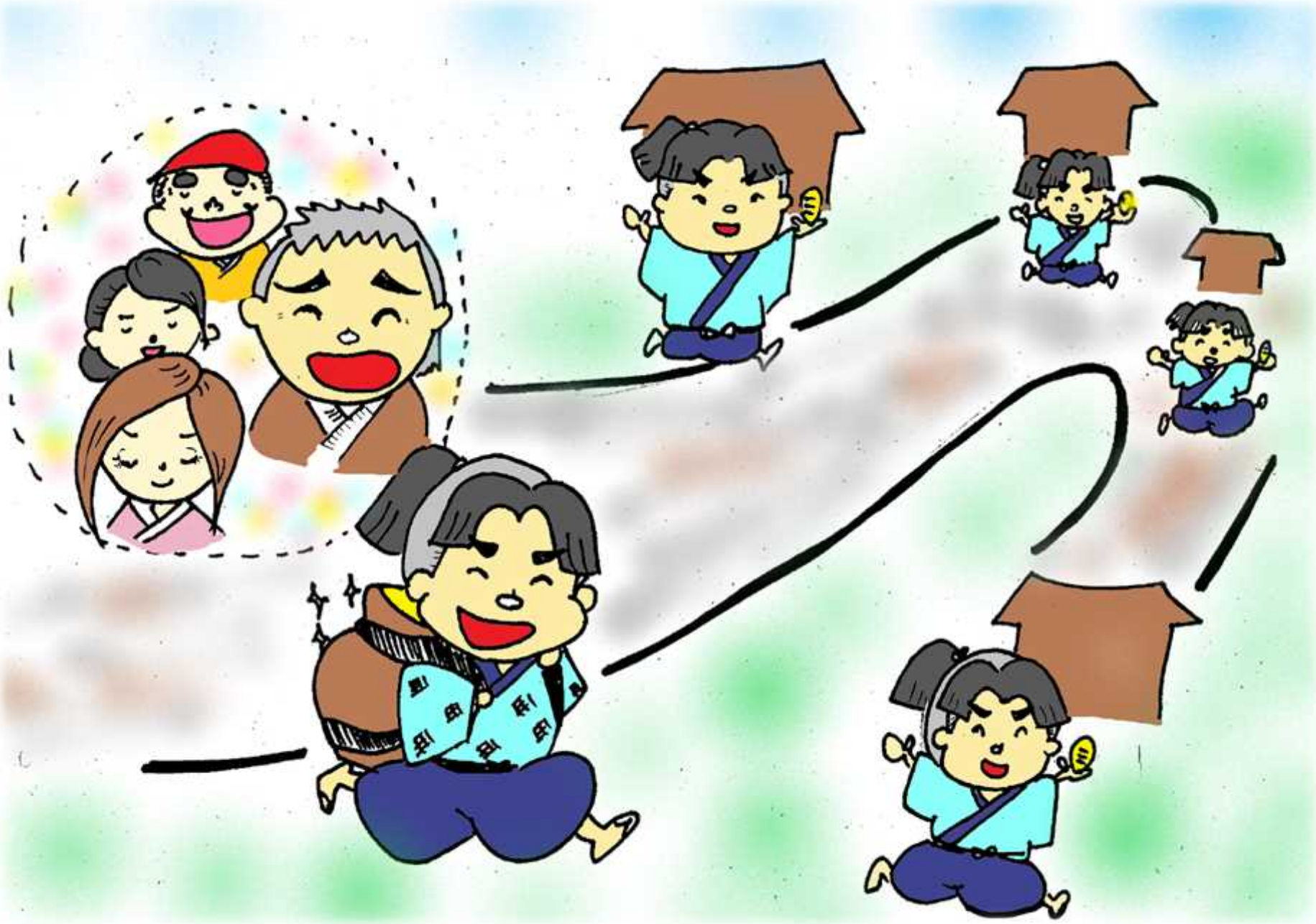


その娘コぁこづの方ば見で、「わぁ、この川のかみ（上）の方のまぢ（街）のあきんど（商人）の娘だばて、さぐねん、親だぢと一緒に舟さ乗ってらどご、大波来て舟ど一緒に沈んでしまいました。この瓶のながには、おとぉ と おかぁ が商いで一生懸命はだらいで貯めだお金が入ってます。おとぉ も おかぁ も わ も死んでまったけど、このお金は、誰がさ拾ってもらて世のながのためにやぐ（役）に立でるべしって、三途の川わだる（渡る）前に相談しました。そごで、わ が毎晩こごさ来て、この瓶をそご（底）がら持ぢ上げで拾てけるふとば探してらんです。わぁ娘だし、この通りこの世の者ではないので、このもで～瓶ば持ぢ上げるごとが出来なふて、毎晩てづだってけ～てづだってけ～ってさげんでらんです。」

三太郎それ聞で、川さはってそごがら瓶ば持ぢ上げで陸さ上げだど。それ見だ娘ぁニコラっと笑って「これでわも、おとぉ と おかぁ が待ってる三途の川の川原さ行ぐことが出来ます。」ってして、スーって消えでまったど。



三太郎それがら、その瓶の蓋ば開げて見だきゃ、にゃ瓶のながさはぎっしりど小判が入ってあったど。三太郎どってんしたばって、それがらおぢづでよぐ考えだど。　こうした大金手さ入ったのも死んだ おど のお陰だ。おど死ぬどぎ、人間いぢばん大事だのは勇気をもづごとど、優しい心ばもづこごとだってした。こすたら大金、ふとりで勝手に使えばばづだる（罰当たる）。あの娘さんも、世のながのためにやぐに立ででってしたあた。



三太郎それば持ち帰って、困ってるふと（人）さ分げでやったど。隣の村さも、その隣の村さも困ってるふとだつさみんな分げでやったど。豆っ子三太って、ばがにしてらふとだづもみんな後悔してせ、それがら三太郎、「情げの三太様」ってされでみんながら尊敬されだんだど。おめだぢも、この三太のおどの教えばいっつも思い出して、「自分さは勇気、ふとさは優しい心を持だねばまいねんでせ～。」

とっつぱれ。